Ⅰ　普及活動事例

１　畑かん営農のしくみづくり

【成果の要約】
　畑かんを活用した徳之島農業の基本目標を明確にし，受益農家と関係機関・団体にとって，生産振興や経営改善の指針となる第２期営農ビジョン（案）を各専門部会や関係機関と連携し，令和 16 年度を目標年度として策定した。
　畑かんマイスター15 人を認定した（再認定７人，新規認定８人）。水利用展示ほ計画作成による展示ほ設置やマイスター連携会議，関係機関と語る会，先進地研修等を開催し，マイスターの育成を図ると共に，展示ほへの看板の設置や現地検討会の開催で水利用を周知した。
　畑かん事業完了地区の水利用実態を把握するために，アンケート調査を実施した。回収率は 72%で，水利用の実態，新たな高収益作物の導入予定，散水器具の不具合による水利用への影響などを把握し，今後の対応等について関係機関と情報共有を行った。

１　対象
　畑かんマイスター15 人，関係機関・団体，畑かん事業完了地区

２　課題を取り上げた理由
（1）　水利用効果等の周知により，畑かんを活用した営農面積が増加傾向にあるが，さらに推進が必要である。
（2）　畑かん推進強化とともに，波及効果の高い農家（畑かんマイスター）へ展示ほ設置等の取組を継続し，関係機関と連携して畑かん営農への気運醸成を図る必要がある。
（3）　畑かん活用による収益性向上や，経営面積・頭数の規模拡大が図られている事例の波及促進とともに，経営体の所得向上を支援する必要がある。

３　活動内容と成果
（1）　畑かん営農推進体制の充実
　ア　次期営農ビジョンの策定
　　畑かん営農ビジョンの令和６年度取組計画である８活動項目を，営農推進本部の各部会でスムーズに実践されるように支援した。営農推進本部の部会長等会議で畑かん営農ビジョン・アクションプログラムの周知を図り，年４回進捗状況を確認しながら進めた。
　　さらに令和６年度は現営農ビジョンの最終年に当たり，各部会と連携しながら現ビジョンの達成状況や課題を整理し，令和 16 年度を目標年度と定めた第２期営農ビジョン（案）を策定した。

畑かん推進検討会

（2） 畑かん営農の波及推進

ア 畑かんマイスターの育成

３年任期の更新年を迎え，各町５人の計 15 人を畑かんマイスターに認定した。その内８人が新規であり，委嘱式や定例会，関係機関と語る会，先進地研修等を開催し，育成を図った。また全マイスターのほ場で水利用展示ほを設置し，看板の設置や現地検討会の開催により水利用促進の波及に努めた。

マイスター連携会議

先進地視察研修（沖縄南部）

水利用展示ほ

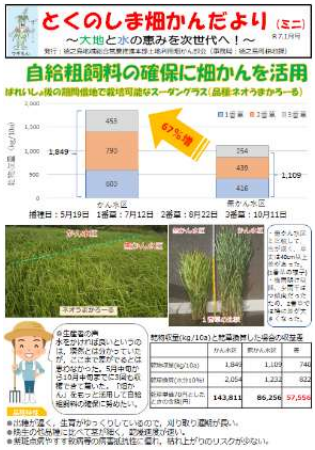
(ア)さとうきび

同一ほ場内に無かん水区を設けた展示ほを設置した。梅雨明け以降は少雨干ばつ傾向であり，かん水区の単収は無かん水区 8.2ｔと比較して約 3.3ｔ増加した。これらの成果は，畑かんだよりで情報提供すると共に，現地検討会を開催し，適期に適量の畑かん水を活用することの重要性を周知し，利用促進を図った。

(イ)飼料作物

ばれいしょ後作での自給粗飼料の増産及びトランスバーラの機械化体系による面積拡大を目的に，畑かんを利用した展示ほ（天城町・伊仙町）を設置し，かん水区では無かん水区と比較して単収が67%増加した。これらの取組について，各町肉用牛振興会の研修会やセリ前研修会，畑かんだよりで情報提供すると共に，現地検討会を開催し，水利用の効果を周知し，利用促進を図った。

トランスバーラほ場での現地検討会



畑かんだより

(ウ)野菜

ばれいしょ及び春かぼちゃの展示ほを設置し，かん水の目安や生育状況の情報提供を行った。ばれいしょでは，10 月下旬から 11 月中旬にかけての降雨による植付けの遅れや 11 月下旬以降の少雨による出芽不良，12 月以降の気温の冷え込みにより肥大が劣るほ場が多い中，畑かんを活用したほ場では，3.2 トン/10a の単収を確保できた。

春かぼちゃでは，労働力削減を目的として，液肥混入器を活用した液肥散布について検討した。今後，労働時間の比較を行い，取組結果について生産者へ周知する予定である。

(エ)花き

トルコギキョウにおいて，研修会等で土壌消毒の重要性を周知すると共に，畑かんを活用した焼酎かすによる土壌還元消毒の取組を支援した。土壌還元消毒の取組農家数は，１戸から３戸に増加し，畑かんの活用が拡大した。

土壌還元消毒取組支援

イ　効果的水利用の実践推進

新型コロナの影響で，散水器具説明会を４年ぶりに開催し，徳之島用水土地改良区が中心となり，各町１カ所計３カ所で行い，46 人の受益者が参加した。

会では，固定式スプリンクラーの維持管理や移動式散水器具の紹介，散水ルールなど適正な畑かんの利用を周知した。

また，畑かん営農へのさらなる理解促進を図るため，年２回の畑かんだより発行の他，毎月のチラシ配付による全島民向けの情報提供を行った。

散水器具取扱説明会

(３)畑かん利用モデルの営農支援

ア　水利用組織の現状把握

事業完了地区へ水利用の実態に関するアンケート調査を実施し，水利用の現状把握を行った(アンケート回収率 72%)。

アンケート調査の結果として，畑かんの利用者は，①収量が増えた，②発芽揃いが良く，生育が揃い・品質が向上した，③播種や植付けが計画的にできるようになった，④台風襲来後の生育促進に活用できたという意見が多数であった。また，畑かんを活用して，今後新たな高収益作物を導入する予定者も数人おり，水利用への理解は高い。一方で，散水器具の不具合等により畑かんを利用できていない受益者も数人おり，今後の対応を関係機関と情報共有を図った。

４　今後の課題

(１)かん水の効果は理解されてきたが，適期に適量を利用する畑かん営農推進については，今後も継続した取組が必要である。

(２)畑かんマイスターを主体に展示ほ設置に取り組み，成果の波及を図ると共に，現地検討会の開催など展示ほを活用した情報発信を強化し，地域計画と連動した，農地の集積・集約も踏まえた畑かん営農を推進する必要がある。

(３)関係機関と連携して畑かんを活用した地域のモデルとなる高収益農家の育成を図り，経営体の育成支援に努める必要がある。

５　担当した普及職員（○はチーフ）

○西村，大迫，有村，前田，能口，池之上，松田，後釜
（牧，濱田）